

市民の力で活き活きと

した文化を創り出そう

服部 正△大阪府立大学教授△

小島 輝正△神戸大学教授△

田口 寛治△神戸大学教授△

——八十年代は文化の時代とはすでに言い出されて久しい感じがありますが、今回は、神戸の文化の活性化というテーマでお話しをお願いします。

文化のハード面は充実したが、さて中味は？

服部 ここ一、二年、県、市、また、いろんな民間サイトで文化の容れものというハードな面は目覚しく充実してきましたね。たとえば、神戸市では文化財団が発足をしましたのですが、各区で地方都市の市民会館・文化会館レベルのものが建って来て、これは壮観といえど壮観ですね。一方、民間サイドで言いますと、灘神戸生協の生活文化センター、また、ポートアイランドのファッシュオンタウンでは中劇場ないし小劇場のキャパシティのあるホールが四つか五つほど出来そうです。神戸には中劇場が不足だと言われて来たのですが、ここ一、二年でかなり出来て来るわけですね。大きなものを別にしますと、部分的には大阪を抜くのではないかと思います。

このように容れものは揃って来るのですが、肝心の中味と、それと、そういう容れものを必要としない、もっ

とソフトな文化活動は、まだこれからだという感じですね。今、容れものの点で大阪は遅れていると言いましたけれど、それじゃ文化不毛かと言うとそうじゃない。大阪には独自のものがずい分とあって、むしろソフトな面では、それこそ町人的な市民の自力でやっているのがずい分とありますね。その点神戸は、割と行政依存型で、自力で、行政なにするものぞというところが、まだ貧弱なような気がしますね。

小島 お話のように、とくにハードの面は、これは、金がかかりますから無理もないのですが、行政依存型のところがありますね。ただ、建物を建てても、それをどう運営して行くかということが問題になる。つまり人材が用意されているかどうかという問題ですね。

田口 先ほどからハードな面はだんだんと充実をしているというお話ですが、現在のように激しい変化のある時代に、何十年後、あるいは何百年後にも保存をしなければいけないという建物はごく特別なものであって、各区の文化センターにしても、何十年も残るものでなくないと思う。しよっちゅう市民の要求は変わって来るんです

よ。それを、りっぱなものをつくらうと身構えてつくるから、すぐに行きづまる。これからの公けの建物は、むしろいかに早くつづすことが出来るか、ということを考えるべきですね。いわば万博方式です。

たとえば、三宮の市街地改造ビルにしても、ああいう身動きの出来ないものをつくってしまったら、これからはどうにもならないと思いますよ。

“雑本図書館” “風俗博物館”を神戸につくろう

服部 もう一つの問題は、神戸で市民の間にどれだけ文化が浸透しているのかということですね。ある時期、神戸では歌舞伎が三日ともたないとか、オペラは出来ないとかいう意味で、文化不毛といわれたのですが、市民レベルではそれは今どうなのかという問題ですね。さっき言いましたように区民センターのようなものが次々と出てきているということは、それへの対応だと思うのですが、そのへんどうなんでしょうか。

小島 そうですね。一つは、そういう神戸市に住んでいる人たちに役に立つというものと、それとは別に、これは神戸の“目玉”だ、神戸に行けばこれがあるということとで、県外からも利用しに来るといえるものがあればより望ましいですね。もちろん博物館も美術館もありますから、あちこちから人が来ていると思いますが。つまり、何でもいいと言っちゃおかしいですが、たとえば、私も以前から時々言っていることなんです、近代文学館の



服部 正さん



小島 輝正さん



田口 寛治さん

ようなものをつくったらどうか。もう一つは芸大の問題もありますね。芸大の話はあとも出ると思いますが、近代文学館の話になりますが、ご承知のように東京に近代文学館があります。これは全国的に利用されていますが、ただそれと同じものを神戸につくっても仕様がありませんね。この間、国文の近世専攻の人と話をしていたのですが、その当時に広く読まれていた絵草子、黄表紙を捜そうと思うとなかなかない。そういうものは消費物ですからなくなってしまう。そういう意味で、これは文学だけではなくて、茶会史とか風俗史とかで昭和をやるときに、どうしても必要となって来るのは、たとえば週刊雑誌とかグラフ雑誌とか、それこそ極端に言うところの二本にいたるまでの雑誌の類ですね。それを見なければ、たとえば昭和十年代の本当の庶民的な風俗やトピックスは分らないということがどうしてもある。そういう意味で、神戸に雑誌図書館を一つつくったらどうか。そうすると、これは他にはないのだから、雑誌のことを調べようと思ったら、それも固苦しい雑誌ではなく「プレイボーイ」から何から、一通りバックナンバーが揃っている図書館をつくったらどうかという話をしていたのですが、これは非常に面白いと思いますね。そういう“やわらかもの”は必ず全部あるとなると、全国から神戸に人が来るようになります。

服部 確かに週刊誌に関しては、二週間たったら手に人らしくありませんね。とくに芸能関係になると捜すのに苦

勞をする。図書館も保存していてくれないですね。

もう一つは新聞でも地方版は見つけにくいですね。たとえば兵庫県でも、日本海側の地方版を見ようと思うと至難の技ですね。スクラップをとっておかないと、これは永久に分らなくなってしまふ。そこへ行ったら朝・毎・読・サンケイの各兵庫県の地方版がスクラップしてあって、いつでも読めるという図書館、さらに全国紙の地方版だけをコピーした図書館がきたらどんなにいいだろうかと思えますね。それと先ほどの雑誌ですね。

田口 カストリ雑誌は戦後の日本そのものですからね。

小島 コピーとかマイクロフィルムでは、その時代の雰囲気は分り難いですね。現物を見ないとね。

服部 神戸が情報の港だとしたら、あまり古いことを言っていないで、近代以降のことをもっと大事にしないと行かないですよ。

小島 そうですよ。神戸は何と言っても近代都市ですからね。伝統が近代に、どういうふう在接受がされているのか、ちゃんと筋が通っていればいいのですが、関連性がなくて、こういうものが大昔にあったというだけじゃ仕様がないですね。われわれが受けとっている神戸というのは、やはり近代都市ですね。その意味で、近代史とか、近代文化とか、近代文学とか、近代風俗とか、そういうものを集めるべきだと思いますよ。

服部 確かに神戸には平清盛以降の歴史はありますが、もっと近代以降を大事にするべきですね。

小島 傍からは、神戸は急激に近代化したモダンな都市であるという点で見られ、うらやましがられているわけですよ。その点で注目されているので、それに徹してしまえばいいわけですよ。

田口 古い時代のことは、単に神戸という範囲よりも、近畿とか、京阪神という歴史のなかでとらえるべきですね。やはり神戸は近代以降の都市ですよ。

服部 私は、「同時代史」という三宅雪嶺がよく使った言葉が好きでよく使うのですが、同時代史文化館という

ものがあっていいのじゃないですかね。

小島 雑誌のみならず、その当時に流行ったレコードや歌の楽譜という資料を揃えてもいい。昭和五十年に何が流行ったかと聞かれても、忘れてしまっている。

服部 それもモニュメンタルな建物でなくていいわけですよ。さんプラザの空いている場所だって出来る。

田口 言ってみれば「雑本図書館」ですね。それをさんプラザのなかにつくってもいい。

小島 これは一たんつくれば一年や二年ではなく、それこそ五十年でも百年でもものを言うわけですよ。

服部 たえば、タウン誌図書館も必要ですし、劇画図書館などもあっていい。

小島 その当時の文学を調べるといっても、その当時の風俗が分らないと本当には理解できない。単なる文字面だけになってしまいますね。そのときに、どんなストリップ劇場が流行っていたか、バーではどんな歌がうたわれていたか、そこらが分らないと本当の文学の研究は出来ないですよ。

服部 今や鷗外や漱石の時代の風俗を説明しろと言われてたって大変なことですね。間もなく今の同時代も同じようなことになるわけですよ。

田口 だから本だけではなくて、神戸に、戦後の風俗、たとえば「真知子巻き」がどのようなものであったか(笑)それを現物で展示する博物館があってもいいわけですよ。

服部 明治の小説、たとえば鷗外を読んでも、髪型がまず分らない。島田の鬢の云々と書いてあっても、それがどういふふうに粋なのか分らない。

さし当って安く出来るのは、同時代の、他の図書館が買わない雑誌の図書館ですよ。たとえばビニ本のようなエロ出版物でも変遷がある。それをさかのぼると「夫婦生活」から「あまもりあ」と、ずうっとあるわけですよ。

ドイツにある性風俗博物館のようなものは日本にはないですからね。そういうものがさんプラザなんか出来るのと理想的だと思えますね。

国際芸術情報大学を拠点とした国際交流の推進を

服部 芸術大学の話になりますが、神戸に芸大が出来るとしても、東京のようなものではなくて、国際芸術情報大学であるべきでしょう。それこそコンピュータのボタンを押すだけで、たとえばウィーンのある作曲家のすべてが分るといふ機能をもったものでなければいけない。神戸に今さらクラシックなものをもって来たって東京に立ち打ち出来るはずがないです。

小島 結局、大学も図書館と同じで、建物だけでは済みませんからね。スタッフが必要なのでなかなか出来ないのですね。小規模のものでいいんですよ。学生数も百人なら百人でいいけれど、これは早く神戸につくらないと必ず他に先手を打たれますよ。今、若い人に本当に何がやりたいかを聞くと、絵を画くとか、作曲するとか、歌手になりたいとか、ちよっとシヨボシヨボした奴で(笑)小説書きたいとか、そういうのが多いんですよ。だから需要は必ずある。

服部 第三セクター方式をとって、私学を誘致するということも一つの方法ですね。これは、また、十分にペイすると思う。また、主婦なども受け入れて、カルチャーセンター的なものを本格的なものにするということも考えていいですね。

田口 いわゆる芸術に対して、柳宗悦が言っている民芸という言葉がありますね。ああいう生活の芸術化をめざす大学があつていいですね。今の若い人たちの夢はそこにあると思う。本格的な芸術をやるのはしんどい。しかし何かやりたい、というね。そういう気持ちは強いね。

服部 だから質のいいアルチザンの養成ということですね。アルチザンというのは非常に大事で、神戸は、国際的にすぐれたアルチザンの本拠地になってもいいのではないですか。大体、アルチザンの本拠地というのは、何もエライ人がいるということだけではなくて、町の庶民が土をひねったり出来るということですね。そういうこ

とが文化の活性化ということで、一番大事なことじゃないでしょうか。

小島 楽しくて一生懸命やるというのが活性化ですね。今の多くの大学のように、イヤイヤながらというのでは仕様がなない。

田口 だから現在の芸大のように悲愴感のあるものじゃダメです。学生も高校を出てすぐに入学する者だけじゃなくていい。

服部 そうですよ。社会人入学ということを考えてもいい。主婦だけではなく、停年退職をした企業のサラリーマンに入ってもらってもいいのじゃないですか。

小島 自分が本当にこれをやりたい、逆に言うと、これをおれば楽しいという人を入れたら大学も活性化しますよ。

服部 ずい分と楽しいことが出来ると思いますね。

それと神戸につくる以上は、国際的な芸術情報のセンターが研究機関の中心に欲しいのですが、たとえば、世界のすぐれた人を客員教授にして、一年一回でいいから神戸に来て特別講義をしてもらうとか、あるいは、客員教授のもとへ学生を派遣し、そこを通して、神戸(ハイレクト)に世界の芸術情報が入るようになるということも考えたいですね。客員教授のなかには、ヨーロッパ・アメリカだけではなくて、中南米、アフリカ、アジア各国も入れる。そうすると非常に新しくユニークな国際芸術大学が出来ると思いますね。それこそ神戸的ではないでしょうか。

十一月の初めに神戸で「南アジア諸国の名作映画祭」が開かれましたが、たとえば、映画学科が出来たら、スリランカとかインドネシアの映画監督を呼ぶということがやれば、非常にユニークなことが出来る。アジアとの交流は非常に大事なのに、アジアとの交流という和日本では、企業の進出にあらずんば、古きよきアジアだけに目を向けるでしょう。これは古きよき日本にだけ目を向けるのと同じことで、近代化しているアジアに目を向け

ないといけない。あの映画祭の面白さはそういうところに目を向けさせた点にあるんですね。

また、中国の京劇の公開練習を神戸でやるということにでもなれば、これは神戸の演劇の活性化にもなる。田口 そういうことが出来るようになるためにも、神戸まつりに日本駐在の大公使のすべてが参加をする。神戸まつりの期間には神戸にいないと外交が出来ないというぐらにならないといけないですね。先進国サミットではなくて、駐在員の文化サミットを神戸まつりの間、神戸で開くということになればいいですね。

急がれる文化専門職の養成

小島 芸大でも最終的には人材の問題になって来ますが実は神戸大学の教養部で考えている案があるんです。つまり、地域に住みついて文化活動のアイデアを生み出して、地域をリード出来るような人間を養成しようという案なんです。それは時間をかけてやらないと出来ない。半年や一年ではとても出来ないですからね。つまり、文化の専門職がいなかったらダメなんです。ところが現状では残念なぐらいなんです。もうちょっと開かれたかたちかと言うか、言葉を変えると、もうちょっとくずれたかたちの、どこにでも適応できるという、そういうオールドラウンドプレイヤーを文化の上でつくらないといけない。それが長いと長つづきしないんです。

服部 文化の専門職は非常に大事ですね。「福祉は文化なり」とは私の持論なんです。福祉の一番大事な精神は、日常の生活を大事にすることです。文化もそうなんです。福祉で居宅ケアということが言われるなら、文化も居宅カルチャーが理想だと思う。どこかハードな建物に行かないと文化がつかれないというのはおかしい。だから、芸術大学を今までに言ったような構想で考えると同時に、文化専門職の養成が大事ですね。

小島 芸大でそれをやるということもありですね。文化へのアイデアを出すということは普通の行政マンでは

出来ないですからね。

服部 文化の活性化ということでは、地元の文化人を大事にすることも必要ですが、神戸に何かが出来たから神戸へ行って住もうという人が出て来ないと嘘ですよ。地元だけを潤すという発想だけではダメです。逆に言うとう神戸の人でないところに参画できないというものはダメだということです。人間の活性化がなかったら何をくってもダメだと思いますね。

小島 もともと神戸はいろんな人間が出たり入ったりして今日まで来ているんですね。

服部 芸大が出来ても地元の人だけが教授になるということを考えていたら、これはとんでもないことです。

小島 神戸は一方に東京があり、傍に大阪・京都があるという複雑な関係の中におかれている。つまり、東京に対抗して何かやろうと思っても、これは芝居にしても音楽にしても出版にしても無理というものです。だから、それに対抗しようと思うと、東京の人間が見て、神戸に何かあるのじゃないかという、神戸に対する「怖さ」の部分をとことんしつこく売らなくちゃ仕様がな。そこそこ東京の真似をしてはとも敵わないですよ。東京ものが恐れている神戸らしさを見せないとダメです。田口 この頃感じるんですけど、神戸大学の学生のコンパや落研の発表会のようなものでも大阪へ行くんですね。会場があるということもあるのでしょうがね。ちょっと前までは三宮だったんですがね。神戸は若者には魅力はあるはずなんです。

服部 ヤング層には神戸に対する魅力はずい分とあるんですが、それが単なる観光だけで消えてしまうのは、いかにも惜しいですね。何かきっかけがあったら神戸へ来ようという若い人はかなりいるわけですよ。そういう人たちを、今の芸術大学にしろ何にしろ、いろんなかたちでもっと神戸に定着させるべきですね。たとえば北野町へ来た人たちをもう一度神戸へ回帰させるためにはハードにもソフトにも何か文化的拠点が欲しいですね。

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区旗塚通 6-3-10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉
神戸市中央区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 稲岡 必三
神戸市中央区三宮町1丁目9-1-807
センタープラザ東館 8F
TEL (078) 392-2101

株式会社ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市中央区三宮町1丁目10-1
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株式会社

取締役社長 葛野 友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594



こんにちは赤ちゃん



高野真吾 / 中央区中山手通

完全看護★冷暖房完備★病院前公共駐車場有

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大柁町1番18号

芦屋保健所東隣

☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

やさしいシニヨンに
ゴールドが映えて



ヘアデザイン / 畑尾宇多子



エリザベス

本店 / 神戸市中央区三宮町2丁目6-4 三宮神社北東
三上ビル3F TEL078 (331)8894・4917

芦屋店 / 阪神芦屋駅北側 TEL0797(22)4067

花嫁衣裳サロン 畑尾美久子の店 本店美容室エリザ
ベスの上・TEL078 (331)3258

専属結婚式場 / 生田神社会館・阪急六甲山ホテル
蘇州園・北野クラブ・

ブラン ドゥ ブラン他

経済ポケット ジャーナル



★10周年を迎えたKFPA
新たな躍進をめざして
創立10周年を迎えたKFPA

(神戸ファッションアンソ
シエーション)は今後10年
の行動目標を新たに定め、
その概要が、川上勉理事長
(オールスタイル(株)社長)
から、11月1日発表された。
行動目標は6項目あり、



①国際ファ
ッション都
市団体との
交流、提携

②神戸ファッションマン
スの拡充、③神戸ファッショ
ン・ダイヤモンド・アベニ
ューの実現、④人材育成と
教育機関の設置、⑤ファッ
ション資料センターの設置
⑥神戸ファッションイメイ
ジ会議の設置を掲げている。
新神戸駅からフラワー
ロード、ポニーアイを結ぶフ
ァッション・ダイヤモンド・
アベニューの構想が新目
標のメインとなっている。

★技術交流シンポジウム
初めて神戸で開催
エレクトロニクス、バイ

オテクノロジー、新素材開
発など最近の技術革新はめ
ざましいものがあるが、そ
の重要性を認識し対応策を
探るべく、「技術交流神戸シ
ンポジウム'82」が10月15日
神戸国際会議場で行われた



第2部のパネルディスカッション

「明日をきりひらく新技術
の開発戦略・技術の時代を
生き残るために」のテーマ
のもとに、まず経済評論家
内橋克人氏が基調講演を行
い、続いて大村皓一(阪大助
教授)をコーディネイター役

に、吉岡昭一郎(アポロ電機
社長)ら五氏により「発想の
原点と成功の条件」につい
てのパネルディスカッショ
ンが行われた。

★80年代のオフィスビル

三宮国際ビルが完成
機能、安全、居住性を高度
に追求した'80年代のオフィ
スビルをめざす三宮国際
ビルがこのほど中央区浜辺
通で稼働が始めたが、10月



中央が森本社長

19日午後、同ビルにて竣工
記念パーティが開かれた。
同ビルは、森本倉庫株式



★KOBEOフィスレディ★

萩原千香子さん(23)
〈藤和不動産神戸営業所〉

甲南女子大学短期大学部を卒業、入社
して4年目。「暖かい雰囲気職場で楽
しい毎日です」と語る千香子さんは、テ
ニス、スキー、ドライブ、旅行が趣味の
明るい女性。「スポーツマンで趣味のあ
う人。一本筋の通った男らしい人がいい
なァ」友達が次々と結婚するので「私も
そろそろいい人を探さないと」と考えている。
2人姉妹の上。姫路市に在住。



菊水 章 矩氏
益々愛され
の神戸名物
になりた

い。また「神戸らしい」お
菓子、店づくりを通じて地
域社会に貢献したい」と語
る新社長の心意気に期待し
たい。

会社(森本楨二社長)が、
三宮ビル北館・南館・西館・
東館につづいて建設したも
ので、地上11階建て。明る
くモダンな外観が目を引く
パーティには、新ビルの主
竣工を祝う神戸経済界の主
だった人々多数が出席、盛
会であった。

□森本倉庫(株)神戸市中央区浜辺通
2丁目1番30号 三宮国際ビル11階
★菊水総本店に六代目社長
菊水啓輔氏の会長就任に

に伴い、弟の菊水章矩氏が新
社長に。瓦せんべいは神戸
市民のお菓子です。ご意見
を頂戴して

ザ・シンフォニーホール 壮嚴に開館演奏会

□日本初の音楽専用ホールが大阪に



上段右より原清朝日放送社長、朝比奈隆指揮の大フィルとオルガンのF・クリンダ氏/下段右より新ホール全景、花束を受ける朝比奈氏、挨拶する大島靖大阪市長

朝日放送が同局創立三十周年記念として、大阪市淀川区大淀南に建てた「ザ・シンフォニーホール」が十月十四日に開館。一般聴衆五百人のほか政財界、文化人ら計千三百人を招いて、オープニングコンサートが開かれた。演奏は朝比奈隆氏指揮の大阪フィルハーモニー。

同ホールはバルコニー席がステージをとり囲むアリーナシアター形式を日本で初めて導入。最も理想的な値といわれる残響時間二秒、全座席数千七百二席の三層構造と音楽演奏を最優先に設計されたクラシック音楽専用ホールだ。

コンサートの開幕曲はワグナーの楽劇「ニュールンベルクのマイスタージンガー」前奏曲。原清朝日放送社長の挨拶に続いて、チェコスロバキアのオルガン奏者フェルディナンド・クリンダ氏がホール正面に据えられたパイプオルガンの壮嚴な響きを初披露した。

演奏会終了後、ホール隣のホテルプラザ・聚楽の間で催されたパーティーには宗像善俊大阪副知事、佐治敏三サントリー社長ら各界名士八百人が参集。席上、大島靖大阪市長は「現在、大阪では21世紀計画が進行中だが、このホールは、いわばその先駆けである。大阪の文化振興のためにも、ぜひ成功して欲しい」と語った。

話題のひろば

<II>

月刊神戸っ子受賞

□昭和57年度の



写真左上よりサントリー文化財団佐治理事長、上中は受賞する本誌小泉編集長／受賞者たち
山崎正和阪大教授／本誌小泉副編集長／丸山日本はきもの博物館長／森口親男京大教授

写真右下より記者会見風景／下左

「サントリー文化財団」（佐治敬三理事長）の主催する昭和57年度の「サントリー地域文化賞」優秀賞を「月刊『神戸っ子』（小泉康夫編集長／兵庫県）が、十月十四日大阪日航ホテルで行われた贈賞式で受賞した。

今年には、他に「江差追分会」（木村義信会長／北海道）「佐渡版画村運動」（高橋信一代表／新潟県）「大阪春秋」（堀内宏昭代表／大阪府）「日本はきもの博物館」（丸山茂樹理事長／広島県）「湯布院・自然と文化の町づくり」（中谷健太郎代表／大分県）などの団体とともに、地域の文化向上に顕著な貢献をしたとして選ばれた。

選考委員は、赤堀四郎、開高健、鈴木謙一、山田稔、梅棹忠夫、堺屋太一、田中健五、佐野善之の各氏。当日は、佐治敬三理事長から賞状と助成金100万円が贈呈されたが、佐治理事長は「ローカル文化の向上こそ、地方の時代の発展に寄与するもの」と語り、赤堀阪大学長は「関西にもっと印刷文化が興ってもいいと思っていたが、地元で神戸っ子や、大阪春秋などが頑張っていて喜ばしい。鈴木謙一経済評論家は「その地域の土地っ子たちが、オリジナリティを發揮している受賞だ」とスピーチ。パーティには江差追分の名調子が流れローカリティあふれる会だった



茶陶展オープニング・パーティーで。右端が小西氏

有馬に初の
ギャラリー「さき」
晩秋の黄昏時、温泉町の仄暗い坂道で
瀟洒なギャラリーをみつけた。湯の街に
ギャラリーという、一見、奇異な取り合

● THE ARIMA SPA ●
IN DEC
湯の街
有馬歳時記



陶器愛好家たちで華やくギャラリー「さき」

わせも、しっとりとした風情をただよ
せるここの有馬では、ほとんど異和感を感じさせない。
真新しいマンションの二階、看板には
ギャラリー「さき」とある。この日(十
月二十九日)は太閤窯・小西平内茶陶展
の初日にあたり、お祝いに駆けつけた茶
人や陶器愛好家で店内は華やいた空気に
包まれている。そういえば、今年で三十
四回目の「有馬大茶会」(十一月二・三日)
も間近い。太閤を偲ぶ茶会と太閤窯の茶
陶展。心憎い取り合わせに思わず足を踏
み入れた。
「さき」は今年の九月四日にオープ
ンした有馬では唯一の貸し画廊。壁面が二
五層、一二層の陳列台を備え絵画展はも
ちろん、書道、いけばな等、各種展示会
に利用出来るよう工夫がこらされてい

雅ただようくつろぎの館
中の坊瑞苑
TEL (078) 904-0781

会議セミナーから御家族づれまで
有馬グランドホテル
TEL (078) 904-0181

結婚式場を完備しています

兵衛 伝統と格式を誇る

向陽閣

景勝高台の近代旅館
TEL (078) 904-0501代

テニスでいい汗
いい湯にとっぶり
味に集う

Sunny Side up
お楽しみはテニスクラブ
TEL (078) 903-1024
本造りの宿 **御所坊**
TEL (078) 904-0551

自然の恵みを
湯けむりに伝える

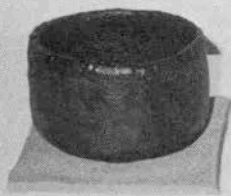
政府登録国際観光旅館

古泉閣

TEL (078) 904-0731

る。総面積約四〇平方尺は、決して大きいとはいえないが、「古湯有馬の歴史から育くまれた地元ゆかりの文化を、少しでも多くの方々に知っていただく」と同時に、地域住民の豊かな感性の拡がりの手助けになれば」という、オーナー・先山信子さんの志は高い。

オーブニング記念展には、自らも絵筆を執る先山さんの恩師、伊川寛(二二紀念)福島金一(二科会)両画伯の作品のほか山崎朔三画伯(二紀念)ら錚々たる顔ぶれが揃った。来年は、有馬とは二十年來の繋りという山田無文展や、地元の寺社が秘蔵している文化財を集めた有馬史料展も計画されている。今回の茶陶展は同



雅趣豊かな黒茶鉢



「さき」のオーナー・先山さん

画廊主催の企画展としては二度目。漆黒の茶盤を中心に小西氏自選の作品三十余点が陳列された。

有馬ゆかりの工芸として知られる太閤窯だが、その歴史は意外に新しい。元々、神有鉄道(現・神戸電鉄)が戦前、有馬に焼物を作ろうと起こした事業で、

「太閤窯」の名も、当時、事業に参画していた興業銀行の結城豊太郎氏の手になる。しかし、戦局の悪化にともない事業は難航。川喜田半泥子の弟子、初代平内に窯が依託された後も戦後の動乱期に電鉄が援助を打ち切るなど試練が続いた。窯が甲山に移されたのは昭和三十三年。有馬初の今回の個展が二十数年ぶりの凱旋である。

初日が退けた宵、別室でパーティーが催された。祝盃に酔った小西氏は「有馬は山下摩紀という屈指の日本画家を産んだ。ところが、地元旅館で彼の絵を掛けているところは一軒もない。花はあっても育てる者がいなかった」と慨嘆する。その時、静かにうなずく先山さんの姿が忘れられない。

後日、先山さんから電話があった。「おかげさまで個展は大成功でした。大茶会当日にはのべ五百人が画廊につめかけたんです。小西先生も大喜びで恒例化のお話もあるんですよ」と声が弾んでいる。

有馬に点った文化の灯は小さい。しかし、その光は確かに有馬を照らし始めた。

□ギヤラリーさき/神戸市北区有馬町二一九八ノ
倉事務所078(90)0713

旅は出会い
ほのぼの心を添えて

政府登録(登録第78号)

●月光園

神戸市北区有馬町318
TEL (078) 904-0366

有馬の歴史を語り続ける「いで湯の宿」

銀水荘

別館 楽山

TEL (078) 904-0622

別館 光楽

TEL (078) 904-3656

欽山は典雅な
日本風の館です

国際観光旅館

◆ 欽山

TEL (078) 904-0701代

敷地内から湧き出る
日本最古の温泉「有馬温泉」

阪急ホテルチェーン

有馬ビューホテル

TEL (078) 904-2295代

温泉と演芸と遊技場

有馬ヘルスセンター

TEL (078) 904-2291

★神戸のミセスに夢のある服作りを捧げて
秋の昼下がりに、安藤善則氏によるビエノが流れる中、紀平真理子さんの司会で、ペパラルワールドと題した、市野木江充子と天里最世子のジョイントファッションショーが催された。一品ずつの手作りを大切に、着る人を美しく見



寛いだジョイントのショー風景

作品を紹介した。対象はミセスが多く、セントジョージジャパンでランチタイムやティタイムを楽しみながらの、優雅なショー。神戸ならではの雰囲気か濃く残っている。クリスマスや新年を迎えおし。れ着をお求めの方には、期待の一着がみつかります。



カジュアルなセーターと帽子とマフラー

★木枯しも帽子とマフラーのペアでおしゃれ
「洗濯やアイロンが楽で、仕事を持つ女性向き、生地のアメリカファッションで、私も愛用しています」と米岡ベトマー社の帽子やマフラー、レックウオーマー、セーターを紹介する帽子デザイナーの平田和子さん。10月16日17日の両日、北野町ローズガーデンのギャラ

ルが混紡された軽くて暖かいマフラーは帽子やセーターと同じ柄で、カジュアルなファッションにとってもお洒落っぽい。平田先生オリジナルの帽子が紹介されると同時にアメリカのワール地方で手作りのアフリカン・エレガンスと呼ばれるアクセサリー類も紹介され、和やかな会になった。

★心優しいビエロを貴女の友に

東京の青山にブティックを持つユニークなビエロ作家、むらじこうじ氏の作品ビエロ・ビエールのコーナーが大丸神戸店5Fにオープンした。元カメラマンのむらじ氏はビエロに魅せられてから、本来の凝り性が興じ自ら作家になったという経歴の持ち主。はとんどが手作りで、一点物や、人形やオルゴール類などビエロをモチーフに美しい夢のある作品だ。輸入品のようなバタ臭さや色調に、懐しいロマンを感じさせ、跳きが深い。プリント刷の文具類や手巻きオルゴールは、価格もお手頃で、ちょっと珍しいクリスマスプレゼントになりそう。



メルヘンの世界へ

★女っぽさ派よう'83春ティオールショー
クリスマスチャン・ディオール'83春のプレタ・ポットの主催により、宝塚ホテルで開かれた。素材はシルクが圧倒的で、シルクジャガード、フアイエ、デシなど、色彩は、ピンク、イエロー、ブルー、ベージュなど淡い色と赤と黒などコントラストの強いもの、そして花柄が美しく、若々しい作品にはフェミニンな二段のスカートやフリル、アダルトなものの



華やかなパンツファッション

はレース使いなど女っぽさ漂うショーだった

★トラッドファン待望の靴ショップ誕生

米国ブラウン社と提携のリーガルはスニーカーやローファー、ウイングチップス等IVYやトラッドファッションには欠かせない靴。そのリーガル専門店が三宮本通り101番地、神戸トラッドファッションの注目を集めている。白長店長は「レディスの人気



男性スタッフがアドバイス

が高いんです。35%のヒールがよく売れています。履き易さと耐久性が抜群のハンドメイドタイプなので値打ちがあります」と話す。リーガルクラブのノベルティ商品も楽しい。リーガルシューズ神戸店・三宮本通り、三宮町2丁目5-12 電話332-67704

★パーティに洒落た料理で演出を

パーティ好きが多い神戸にパーティ専門の会社が生じた。パーティに関しては会場設営からコンパニオンの手配、料理・飲物後片付けまで全て引き受けてくれる。ホームパーティの場合は、豪華なメインディッシュを一面だけ注文し、後は手作りというのもいい。



気軽にパーティを開きませんか

元フック神戸店のシェフでお馴染みの茅切勇社長は「従来のパーティ料理とは一味違った夢のある一品です。将来はパーティアップグレード」と抱負を語る。これからクリスマス、忘年会、新年会等のパーティが多い季節に話題を集めよう。電話332-12340

□パーティケイタリングサービスのお問合せ
電話332-12340



ソワレ
夜会の佳人。

イルミネーションの光と影が
織りなす夢幻の刻、12月。

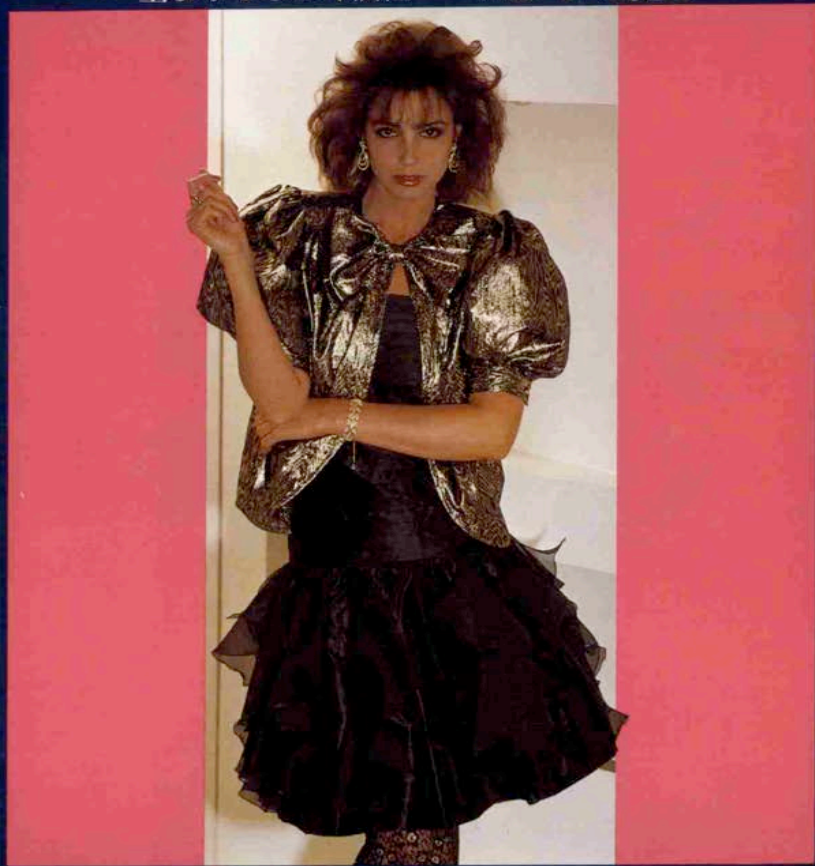
クリスマス・ローズの匂い、
シンフォニーの調べ……………。

華やかな夜を着こなし、
佳人行つ。



serizawa

★ 星よりきらめく個性.....This is KOBE



Sinora

エレガンスブティックシンワ 〈三宮センター街〉 TEL・078・321・0200
331・3098
シンワ洋装店 〈さんちかファミリータウン〉 TEL・078・321・5254
コットンシンワ 〈須磨パティオ専門店街〉 TEL・078・791・0002

VIVA NOËL



POËTIQUE

KOBE

まさ

- 神戸 さんプラザ店
 さんちか店
- 大阪 須磨パティオ店
 千里阪急地下街店
 阪急ファイブ店
 西武高槻店
- 宝塚 泉北パンジョ店
 阪急ファミリーストア店
- 大津 西武大津SC店

リース/浅井知子

新 魅惑のチョコレート
 チョコレート作り60年の
 手づくり
 ゴンチャロフから
 チョコレートの本格派
 メッセ神戸

Goncharoff



ゴンチャロフ

極めて、まるやか
 simple & elegant
 メッセ神戸

高級手づくりチョコレート



¥5,000(50個入)



¥2,000(20個入)



¥3,000
 (30個入)



¥1,000(10個入)

吟味を重ねた高品質の材料を、惜しみなく時をかけて磨きあげ、一粒一粒心をこめて形づくりしました。日本人の味覚に応えるデリケートな風味。ヨーロッパの手づくりチョコレートを凌ぐ絶妙な調和。〈メッセ神戸〉は、魅惑のチョコレートです。熱い紅茶や、お好きな洋酒とともにご賞味ください。

〈メッセ神戸〉は、あなたのまごころを託す贈りものに好適です。この冬のギフトにどうぞ。

Family Christmas



ヘクセンハウス

グリム童話のヘンデルとグレーテルが道に迷って森の中で見つけた魔法使いの住む「お菓子の家」です。ヘクセンハウス ¥4,000



シュトーレン

ドイツのクリスマスには欠かせないお菓子です。日持ちがよく、しかも日かたつほどおいしくなるので、クリスマスの1か月前に買い、うすく切ってクリスマスまで食べます。

左下・バウムクーヘン ¥1,000
中央・クリスマスケーキ(ホワイトとチョコレート) ¥1,500から
右下・シュトーレン ¥1,000



ユ-ハイム



KOBE HIGH CLASS SHOP

●世界の暮しもプレゼント



楽しんでいきます 眼鏡ライフ

小山乃里子
(ラジオタレント)

私が初めて眼鏡をかけたのは、アナウンサーになって三年目の事だった。スタジオの時計の針が、ぼんやりとかすんで見える。映画の字幕がぼやけて、必死で読んでいると画面がまったく記憶にない。だんだん美貌までが損なわれるような気がして、思いついて眼鏡を作った。その時、その店の人が、今までロクな男に出会わなかったのは、はっきり見えなかったせいだ。さあ、今日からは世界が広がるぞ、と私の背中をたたいた。こんな眼鏡美人は見た事もない、とも言ってくれた。以来、私はすっかり眼鏡党である。神戸に居留地があったころから、もう九十年の歴史を持つ服部メガネ店。よくこれだけの種類が揃っている、ただただ感心。しばらく眠っていた病気が、又頭をもち上げた。つまり、洋服に合わせて眼鏡を作るといふ事、これが楽しいのです。

(左)北出弥美社長
(中央)北出弥一郎専務

顕微鏡・天体望遠鏡
航海計器・光学器一般

服部メガネ店

神戸大丸前 TEL. 078-331-1123
定休日 水曜日 9:00AM - 7:00PM

Christmas Sale



PIASPORTS



▲シャツ ¥16,000, ベスト ¥18,000, スラックス ¥20,000
(以上PIA SPORTS) ベルト(DAKS) ¥5,500

◀リバーシブルブルゾン(ベスト兼用) ¥50,000
ブルオーバー ¥48,000
セーター ¥24,000

※12月17日よりクリスマスセールを開催いたします。
特別奉仕品をいろいろ取り揃えてお待ちしております。

MEN'S SHOP
KENT

〒650 神戸市中央区下山手通4丁目10-19 TEL 078-331-8776